



2020年10月ニューイングランド・ジャーナル・オブ・メディスンに発表されたスウェーデンからの衝撃的な内容です。図の橙色実線で示される HPV ワクチン非接種の場合、24歳頃から子宮頸がんが増えてきます。一方、緑色点線で示される17歳未満で接種を受けた場合は、ほとんど抑えられています。

我が国は、定期接種である HPV ワクチンについて2013年6月に厚労省が接種勧奨を中止したため、各自治体からのお知らせ・予診票が各家庭に送られなくなりました。そのため、今でも無料で普通に受けられる定期ワクチンでありながら、その存在自体を知らない方がほとんどになりました。現在、HPV ワクチン国内接種率は1%未満で推移しており、このグラフでは橙色の状況になっていると思われます。なるべく早く、多くの若い日本女性が、このワクチンの恩恵を受けられるようにしたいと思います。

当院のHPVワクチン接種

定期接種（公費） 4価ワクチン

✓小学6年～高校1年女子（11・12歳推奨）

任意接種（自費）

✓9歳以上男子 4価ワクチン

✓高校2年以上女子 4価ワクチン・9価ワクチン*

- 予診票はいずれも当院にあります
- 接種回数は14歳以下2回、15歳以上3回

* 添付文書上は9歳以上女子で接種可能